

平成18年度

# 横浜市芸術文化教育プログラム推進事業

平成19年2月3日(土)

《シンポジウム》アートと学校教育の連携を考える

配布資料

横浜市

財団法人横浜市芸術文化振興財団

助成：財団法人地域創造



## 横浜市芸術文化教育プログラム推進事業

### 子どもたちとアーティストとの出会いにのぞむこと

横浜市は、平成 21 年(2009 年)に開港 150 周年・市政 120 周年を迎えます。この日本近代化の歴史の中で、横浜は大きな変化をとげ、360 万人の人口を有する都市に発展しました。そしていま、社会経済のグローバル化が進行するなかで、さらに魅力ある都市として成長を続けるため、『横浜市基本構想』\*を策定し“市民力”、“創造力”により新たな「横浜らしさ」を生み出す都市として発展していこうとしています。

学校へアーティストを派遣する『横浜市芸術文化教育プログラム推進事業』は、次代を担う子どもたちの創造性を育む機会を作り出そうとするものです。3 年目になる今年も様々なジャンルのプログラムで、児童自らがワークショップ等による文化芸術活動を体験しています。

この 3 年間の実施をとおして、私たちはあらためて芸術とは何か、芸術が社会にどのように寄与するか、この体験によって児童に何を伝えられるか、ということを考え続けてきました。

芸術は、ひとのこころの動き、感情などを他者に伝える表現であり、また、アーティスト個人の表現行為を、社会性を持つものに変えたものでもあります。

アーティストは、その技術をもって新たな価値を創り出し伝える人として、子どもたちに、人のこころと社会をつなぐ経験を与えてくれるのです。

そして、学校は、社会の多様性を理解し他者と協調し、かつ個人の資質を十分に発揮できる人間を育てていく場であり、そのなかで、芸術やアーティストが果たす役割は大きいと考えています。

子どもたちをめぐる様々な課題に対して、文化芸術が果たす役割は、ますます高まっています。

私たちは、アーティストとの出会いによって、子どもたちが伝えあうことの喜びを知り、みずからの持つ柔軟な発想力、知に対する大いなる探究心、旺盛な好奇心など一変変化を恐れず自らを育てていく力、さまざまな力—子どもたちが持つそれらの潜在的な力が発揮されていくことと考えています。

多くの子どもたちに芸術と、そしてアーティストと出会っていただきたく、横浜市では、『横浜市中期計画』\*において、平成 22 年度に市内 100 校でプログラム提供することを目標としました。

今後、より有意義なプログラムとするため、教育委員会、学校、アーティスト、芸術団体等との協働をもって担い手の育成や実施体制の整備を図っていきたいと考えています。

横浜市 市民活力推進局 文化振興課

※『横浜市基本構想』：平成 18 年 6 月に策定。横浜の 20 年を展望した行政運営の指針

\*「市民力」＝ 自主的に地域や社会活動に参加し、多様な価値観を超えて協働する力

\*「創造力」＝ 進取の精神と多様性を認める柔軟さを持ち、自らの感性により自由な創造活動を行う力

※『横浜市中期計画』：基本構想を具体化していくための 5 カ年(平成 18 年~22 年)の計画

\* これらの計画については、こちらの HP をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/keiei/seisaku/vision/>

◆平成18年度 横浜市芸術文化教育プログラム推進事業について

財団法人横浜市芸術文化振興財団では、横浜市からの委託を受け、平成16年度より「横浜市芸術文化教育プログラム推進事業」の企画立案・実施に参画しています。

「横浜市芸術文化教育プログラム推進事業」は、学校の授業に様々なジャンルのアーティストを派遣し、体験型のワークショップを中心に展開する事業です。横浜の将来を担う子ども達が活力あふれる社会を作って行けるよう、芸術文化活動の体験を通して子どもの潜在的な創造性を引き出し伸ばしていくことを主眼に、体験する過程そのものを大切にしながら実施しています。

平成18年度の同事業では、教育委員会を通じて約350の全市立小学校に希望を募り、市内22の小学校で実施しています。個別のプログラムを実施するにあたっては、各学校と協議し、また参加アーティストの意見も活かしながら企画立案を進めました。

4月 **企画概要の立案**  
学校への提案企画として、5ジャンル・19プログラムを準備。



5月 **実施校の募集**  
市内の全市立小学校へ、教育委員会を経由して募集案内を配布し、参加希望を受付。



6月 **実施希望校との調整**  
22校でのプログラム実施を決定。



7月 **プログラム開始**  
(～19年2月)

先生・アーティストとの打合せ



プログラム実施



振り返り



3月 **全体報告書の作成**



個別プログラムの流れ

- ①実施概要の決定  
学校側の日程や状況・要望を聞き取り、アーティストのアイデアも活かしながら、具体的なプログラムへと練りあげる。
- ②打合せ  
学校・アーティスト・スタッフ間での意見交換をし、プログラムを完成。児童の様子や学校の環境の確認のため、アーティストと下見・見学を行う。
- ③プログラム当日
- ④振り返り  
児童・先生から回収した感想またはアンケートを基に、振り返りを実施。実施に伴う効果や、今後に向けての課題等を聞き取り。

## 美術 — パペット人形

人形を通して表現し、創造力や想像力を高めていく

実施校 : 横浜市立北方小学校  
日 時 : 平成18年7月10日(月)、9月11日(月)  
9月22日(金)、9月29日(金)  
各日1~4時間目  
[9月30日(土) ※授業参観に合わせて発表会を開催]  
対象学年 : 3年生(3クラス)  
実施教科 : 総合学習  
アーティスト : 中村信子

### <実施にあたって>

引っ込み思案であったり、まだ対話能力が未成熟であったりして、普段なかなか発信できない子どもでも、「人形」というツールを使うことで、みんなの前で自分を表現できる機会を持てれば、という期待がありました。また、3年生という学年は、国語では「起承転結」を意識した作文の時間が始まり、コミュニケーション能力が日々向上していく時期でもあるので、「人形を使って何かを表現する」「グループでお話しを作り上げる」という学習が大きな経験に繋がるように、子どもの自由な表現を尊重しつつプログラムが進められるよう講師と検討していきました。

### プログラムの実施



【1日目】 パペット人形作り  
子どもが自分が描いたイラストに沿って、ウレタンの板から人形を作りあげていきました。この日は、人形本体の製作と基本的な飾りつけまでを完成させた後、人形が話す時に口を開け閉めするなどの基本的な動きを学びました。



#### 【2~3日目】

人形の自己紹介 ~ お話作り  
夏休みの間に考えてきてもらった、人形の名前や特徴の発表からはじめました。それから、グループに分かれて、発表に向けたお話し作りに取り掛かりました。お話しが出来上がった後、実際に人形を動かしてみ、どうしたらそのシーンにあった動きができるかを練習しました。



#### 【4日目】

発表に向けてのリハーサル  
授業参観への本番に向けて、人形を動かす練習や、台詞に合わせた動き方を考えていきました。発表は、クラスごと、グループごとに個性が見えてきました。操演・セリフの上達に加えて、自分たちで考えた効果音や小道具も加わり、劇の完成度も向上しました。

### 先生から

- ・ 普段はコミュニケーションがうまく取れない子どもも、人形を通じた会話や演技が自然にできていました。
- ・ 発表会では、いつもは目立たない子、発言の少ない子もしっかりと参加し、みんなの前で発言する機会が持っていたことが良かったと思います。
- ・ 子どもたちが普段よりもずっと活発に動き、笑い、話しながら、自然に知恵を出しあい、自分たちで力をあわせて作り上げていけたことに驚きました。
- ・ 講師の方が、子どものちょっとした動きをすばやくとらえてアドバイスするところに、さすがと感心させられました。子どもたちが、講師の一言でさらに楽しみ、次への学習へと意欲を強めていったようでした。

### プログラムを振り返って

### 児童から

- ・ (グループで「綱引き」を表現した子どもより) 班でひとつのきょうぎができたのが、一番楽しかったです。
- ・ 今度は、中村先生のむずかしいパペット人形を、みんなで作ってみたいと思います。
- ・ 自分で糸とか、わたとか、ボタンとか、いろんなものをつかって、パペットをつくりたいです。
- ・ パペットをたくさん作って、いろんな劇を、またしてみたいです。
- ・ げきがおわったとき、はくしゅがきたのがうれしかったです。
- ・ 一日中パペットのじゅぎょうをしてみたいです。
- ・ 発表のとき、すごくきんちょうしました。

## 美術 — 似顔絵

相手と対話しながら、「楽しく描く」

実施校 : 横浜市立南神大寺小学校  
日時 : 平成18年7月11日(火) 1～4時間目  
対象学年 : 1年生(2クラス)

実施校 : 横浜市立上白根小学校  
日時 : 平成18年7月12日(水) 1～4時間目  
対象学年 : 6年生(4クラス)

実施校 : 横浜市立下野庭小学校  
日時 : 平成18年7月14日(金) 1～4時間目  
対象学年 : 3年生(3クラス)

実施教科 : 図工  
アーティスト : 黒田晃弘

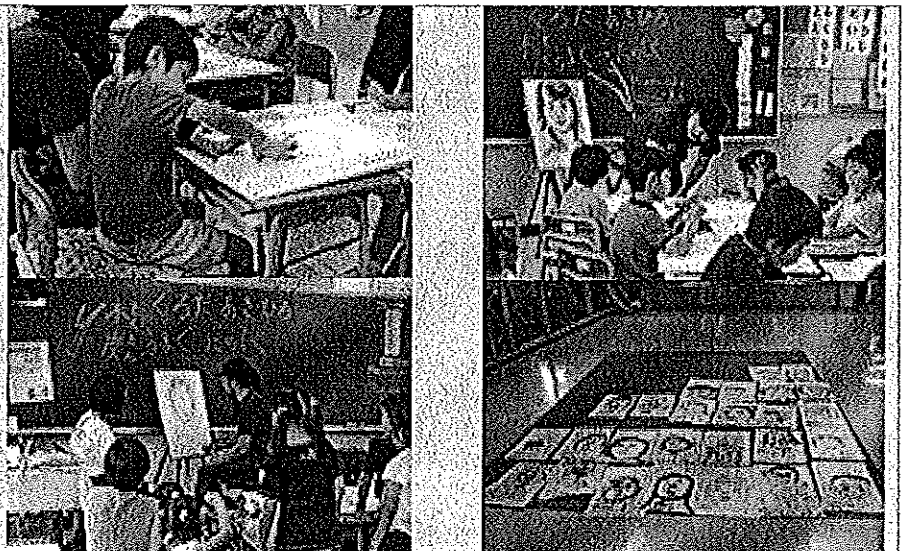
### <実施にあたって>

現在の小学校の図工の授業では、創造性を発揮して自由に作品作りを行うことが多く、「描く技術」的な指導の機会が少なくなっています。似顔絵を描くことは、対象となる人物とコミュニケーションしながら、「よく見て描く」「感じ取って描く」ことです。講師の黒田氏が指導する画法は、木炭をつぶして粉状にし、指を使って描いていくというもので、ほとんどの子どもたちにとって未知の作業となります。このような普段と異なる制作過程の体験と、「うまく描く」ことよりも「楽しく描く」ことの方が重要であると言う発想を伝えることで、絵を描くことが単なる作業ではなく、最も身近な創作活動のひとつであることを自然に理解してもらいます。

### プログラムの実施

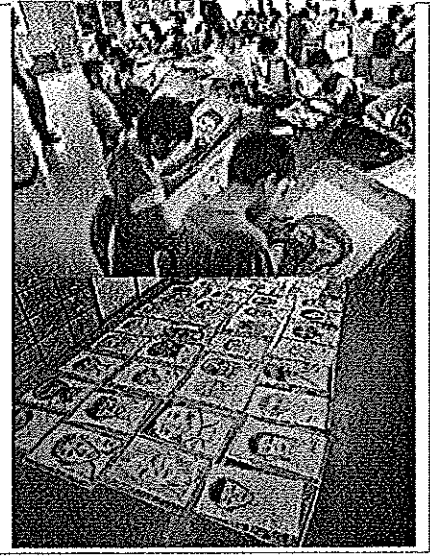
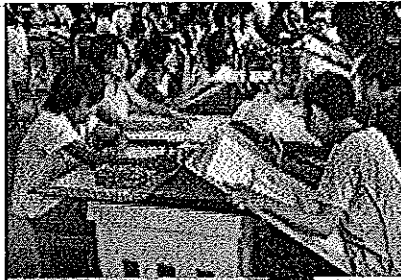
#### 南神大寺小学校

1年生は、絵を描くことへの苦手意識を持っている子どもも少なく、木炭を粉にするという初めての体験に、歓声をあげながら、手を真っ黒にして描いていました。



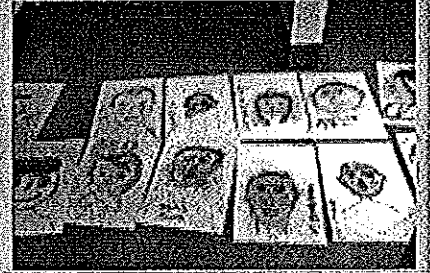
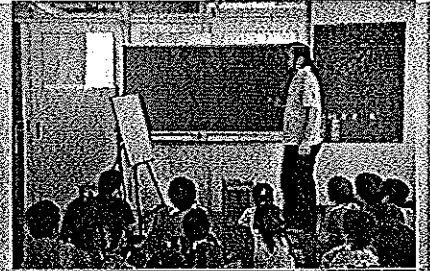
### 上白根小学校

「木炭の粉と指で描く」という、子どもたち全員が未経験の作業のため、普段は「絵を描くのは苦手」という子も、伸び伸びと描けていました。



### 下野庭小学校

導入のお話と、先生の似顔絵のおかげで、はじめから子どもたちの関心が高まって、集中して描けました。



## プログラムを振り返って

先生から

### <南神大寺小学校>

- ・ 現在の教科書には、「対象物を良く見て描く」「思いを感じ取って描く」という学習があまりないので、子どもたちにとって新鮮な活動だった（先生にとっても、子どもたちの反応が新鮮だった）。
- ・ 子どもたちが、プログラム後に、「絵がうまくなる方法は、何度も描くこと。練習すること」という認識を持っていた。

### <上白根小学校>

- ・ 「上手く描く」ことより「楽しく描く」と言うことのほうが大切という導入が、子どもたちの気持ちの余裕に繋がっていた。

### <下野庭小学校>

- ・ 初めて手にした素材が子どもの心を解放し、図工が苦手と思っている子どもも積極的に参加し、生き生きとした表情をしていた。

児童から

- ・ ぼくは、下手だと思っていた絵を「上手だね」と言ってくれてうれしかったです。
- ・ 今までにやったことのないもので、書いたことのない絵だったので、とてもむずかしかったです。
- ・ 手でかくのはむずかしかったけど、いがいに楽しくておもしろかった。
- ・ すみをつぶしてこなにしていって絵をかけた時、すごく手ざわりがよくて、絵ってこんなにたのしいんだな～と思いました。
- ・ ぼくは手先が器用じゃなかったのですが、あせりしましたが上手くかけたのでよかったです。
- ・ 黒田先生はさいしょはてきとうに描いてたみたいだったけど、どんどん本物みたいになってきたのがすごかったです。
- ・ さいごにじぶんのサインを入れるのが、かっよかったです。

## 音楽 — ジャズ

ジャズのリズムに触れ、アドリブに挑戦してみる

実施校 : 横浜市立俣野小学校  
日時 : 平成18年9月8日(金)、9月12日(火)  
9月15日(金) 各日3~4時間目  
対象学年 : 4年生(1クラス)  
実施教科 : 音楽  
アーティスト : ユキ・アリマサ

### <実施にあたって>

横浜は「日本のジャズのふるさと」と言われ、毎年10月には日本最大級のジャズ・フェスティバルである「横浜ジャズプロムナード」が実施されています。しかし、子どもたちにとって、ジャズに直接触れる機会がそれほど多いわけではないのも事実です。そこで、「ジャズの街」で生まれた子どもたちに、ジャズを身近に感じられるよう、ジャズの中心要素であるリズムを導入に、どんな音楽なのかを体で感じ取ってもらえるプログラムを目指します。

### プログラムの実施

#### 【1日目】

講師の演奏と、リズムに触れる  
講師と楽器の紹介を兼ね、本格的なジャズの演奏を聴きました。大半の子どもたちが、はじめて触れるジャズと楽器に興奮。導入の体験として、手拍子や足踏みで、バンドと一緒にリズムを刻んでみました。



#### 【2日目】

ジャズのリズムをしっかりと  
それぞれが楽器を手に、いくつかのグループに分かれてリズムの合奏を体験しました。楽譜の代わりにイラストを使い、リズムのもつ「表情」を感じ取ってもらいました。3日目の発表に向けて、アドリブも交えた練習を開始しました。



#### 【3日目】

##### いよいよ発表!

2日間のおさらいの後には、発表に向けた最後の練習。発表では、ほかの学年の子どもたちと保護者を前に、ジャズバンドとセッションがスタート。アドリブ&ソロ担当の子どもたちも緊張しながら、しっかり演奏していました。



先生から

### プログラムを振り返って

児童から

- 子どもたちが、あまり目にすることのない大きな楽器や音に、すごく興奮していた。
- 講師が、子どもたちの「聴くこと」「感じること」「考えること」、なにより「楽しむこと」をととても大切にしていたのが印象的だった。
- 対象としては、5、6年生の方がじっくりと腰を据えて参加できたかもしれない。4年生の場合は、事前にリズムに親しむ授業を経てから望んだ方がよかったかもしれない。
- 「プロに直接触れる」。これが、子どもたちにとって何よりの財産になったと思う。

- 3日間ジャズを教えてくれて、ありがとうございます。一番楽しかったのは、最後のえんそうです。私は、学校にジャズの授業があればいいな!と思いました。また、ジャズの授業をやりたいです!
- 私は、ベースとドラムをひいてみたのが、楽しかったです。ドラムのペダルをふんだら、空気が出ました。ベースの弓を持ってひいたら、体にひびくようなくらい音が出ました。ジャズのリズムが分かりました。
- ジャズ教室をやると聞いたときぼくは、ビックリしました。早くやりたくてうずうずしました。やってみると本当におもしろかったです。たくさんの楽器のそばでリズムを作ることがおもしろかったです。



## 舞踊 — 琉球舞踊

琉球の歴史と文化に触れ、その伝統芸能を体験する

実施校 : 横浜市立中田小学校  
日時 : 平成18年9月16日(土) 9:00~11:00  
※学校キャンプの一環として実施  
対象学年 : 4年生(3クラス)  
実施教科 : 総合学習  
アーティスト : 琉球音楽絃友会

### <実施にあたって>

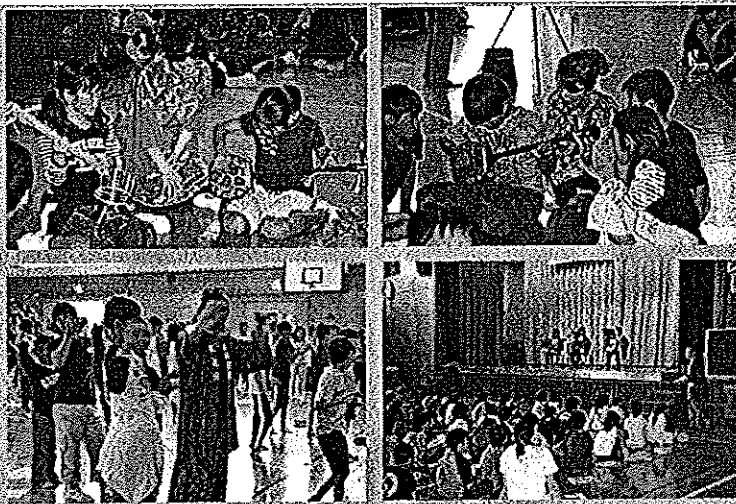
中田小学校では、このプログラムをキャンプの一環として実施しました。4年の理科「ゴーヤの栽培」が沖縄に興味を持たせたからです。「全力・協力・行動力」をテーマに行われた校内キャンプは、ふだん接することのない文化に触れることができ、実のりあるものとなりました。その後、12月に実施された中田っ子フェスティバルまで沖縄はつながりました。「メンソーレ! 沖なわ」と看板をかかげ、子どもたち沖縄の文化や風土、歴史など幅広い活動に取り組むことができました。

### プログラムの実施

#### サンシンとカーチャーシー

学校キャンプの中で、沖縄の伝統芸能である「サンシン(三絃)」と「カチャーシー(沖縄舞踊)」を体験しました。

はじめに、サンシンの説明を聞き、数名ずつのグループに分かれて、サンシンに触れました。滑らかに演奏するのは難しくても、一音ずつならきれいに鳴らすことができていました。その後、琉球の伝統に則った、鮮やかな衣装を身に着けた演者たちによる、方言の面白みを交えた歌と、古より伝わる踊りを鑑賞しました。最後に、エイサーからカチャーシーに続く演奏に合わせて、自由に手を挙げてかき混ぜる手振りを習い、体験しました。



#### 先生から

- 子どもたちにとって、「沖縄の伝統芸能」に直接触れることができたこと自体が稀有なことで、とても新鮮な体験でした。
- 学校キャンプ2日目の午前中の実施ということで、子どもたちのコンディションがあまりよくなく、集中力が切れてしまったのが残念。
- 今年度の総合学習の時間に「沖縄」をテーマとした継続した授業を続けていく上でも、導入としては効果的でした。

### プログラムを振り返って

#### 児童から

- 踊りがそろっていてカッコ良かったです。
- サンシンがうまかった。
- サンシンを弾かせてもらって嬉しかった。
- 衣しようがあざやかできれいだった。
- エイサーの踊りはむずかしかったけれど、楽しく踊れたよ。

## 美術 — 市民ギャラリーとの連携

『糸と布のかたち・造形ワークショップ』

「ニューアート展2006」出品作家との、身近な素材による共同制作

実施校 : 横浜市立永田小学校  
日時 : 平成18年10月6日(金) 3~4時間目  
10月16日(月) 3~5時間目  
対象学年 : 6年生(1クラス)  
実施教科 : 総合学習  
アーティスト : 眞田岳彦

### <実施にあたって>

横浜において、明治の開港から昭和にいたるまで、最も重要な産業として栄えたのは「絹」を中心とした日本の伝統技術に培われた「糸」と「布」でした。その視点から、地域に強く結びついてきた「絹」を素材として、繭の状態から糸になる過程を体験し、身近な素材に潜む不思議さを感じてもらいました。そして、自分で作った素材を材料として作品を制作することで、子どもたちがもつ創造力と思考力を育みます。

### プログラムの実施

**【1日目】 繭の座繰りをして、絹を作ろう**  
この学習が始まる前に、グループでテーマを設けて蚕や繭、布について調べ、その知識をみんなの前で発表しました。その後、実際に繭に触れ、座繰り(煮た繭から絹糸を作り出していく作業)に挑戦し、絹糸や布になっていく不思議さや面白さを体験しました。最後は、次回の作品制作の材料を自分で作るため、木綿を自分で方法を考え、染めてくるよう宿題が出されました。

**【2日目】 自分で作った糸と身近な材料で作品作り**  
真綿から糸をつむぐことを体験し、その後で先週の宿題である自分で染めた木綿を裂いて、布を織る材料を作っていました。厚紙でできた織機を使って布を織り、出来上がった布を使って、立体的な造形物を作りました。最後に、自分達の作った造形物が何かを、みんなの前で発表していきました。



#### 先生から

- ・ 学校の外の、専門性を持った方から教えていただけるという機会は、子どもたちにとっては貴重な体験になりました。
- ・ 元々、工作などの作業が好きな子どもたちなこともあって、プログラムに興味を持って参加していたので、時間内の作業も、それ以外の調べ活動や自宅での制作作業も、積極的に活動できていました。

### プログラムを振り返って

#### 児童から

- ・ まゆから糸をとるのに、ものすごく時間がかかったけど、巻き終わってみるときれいにできていたので、やりがいがありました。
- ・ 絹のことについて勉強したら、この頃では自分の着ている服が何かと気になっています。
- ・ 最初はくさいのでやりたくなかったけど、少しやったら楽しくなってきてまたやりたいと思いました。サナギが見えて、もうやめようと思ったけど、カイコの命をもらってやっているのがんばろうと思いました。

## 音楽 — 器楽

楽器作りを通じて仕組みを知り、楽器への楽しさを感じよう

実施校 : 横浜市立桂台小学校  
日 時 : 平成18年11月1日(水)、11月8日(水)、  
11月14日(火)、11月28日(火)  
各日1~4時限  
対象学年 : 1年生(2クラス)  
実施教科 : 音楽  
アーティスト : 古橋孝之

### <実施にあたって>

身の回りにある材料で楽器を作ること、楽器の音の出る仕組みを理解します。キレイな音の出る楽器も、実はとても身近な現象であることを学び、作った楽器の音の違いを、お互いが作ったものを観察しあうことで発見します。自分で作った楽器には愛着が生まれ、その楽器で演奏すれば、音楽の原点である“音を楽しむ”ことが簡単にできるはずです。

### プログラムの実施

#### 【1日目】

楽器を作ってみよう①  
トロンボーンの演奏から、楽器の構造説明へ。みんなで音が出る仕組みを考えた後、ホースと漏斗の「ホースラッパ」で確認。さらに応用として、「ストロー笛」をみんなで作りしました。

#### 【2日目】

楽器を作ってみよう②  
ストロー笛の大合奏で講師をお迎え。本日の課題は「空き缶ホーン」。はじめは、なかなか音が出ませんが、少しずつ音が出始めて、最後はみんなで「キラキラ星」を合奏しました。

#### 【3日目】

トロンボーンに挑戦  
3台のトロンボーンを交代で吹いてみました。今まで学んだことを応用したら、すぐに音が出せるようになりました。前回作った空き缶ホーンの腕前にも磨きを掛けました。

#### 【4日目】

楽器を作ってみよう③  
色々な長さのストロー笛を作ってみて、音の違いに気づきました。最後に作ったのは、「巨大レインスティック」。子どもたちの身長より大きなものを、協力して作り上げました。



### プログラムを振り返って

#### 先生から

- 子どもたちは、普段見たことのない人物が来て教えてくれることで、新たな目線で注目してくれる。
- 楽器製作は、音楽としての要素と、工学的な要素とがあり、(1年生にとっては)長い時間も飽きずに取り組めた。
- しばらくの間は、休み時間になるとストロー笛を吹く子どもが多く、他の学年からも「1年だけズルイ」とうらやましがられていた。
- 本物のトロンボーンに触れられたことを、喜んだ子どもが多かった。

#### 児童から

- トロンボーンを吹くことができて楽しかった。
- こんど自分で、色々なストロー笛をつくってみたい。
- いろんな楽器をみれてうれしかった。
- 楽器の作り方や楽器の吹き方を教えてくれてありがとう。
- レインスティックが楽しかった。
- 先生はトロンボーンが上手いね。
- また来てください。

## 伝統芸能 — 狂言

日本の伝統に触れ、文化の多様性を認めあう

実施校 : 横浜市立高舟台小学校  
日時 : 平成18年11月20日(月) 3～5時間目  
対象学年 : 6年生(2クラス) ※鑑賞については全学年  
実施教科 : 国語

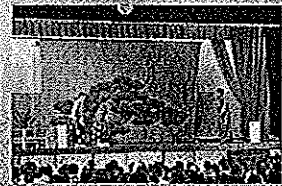
実施校 : 横浜市立いちょう小学校  
日時 : 平成18年11月22日(水) 3～5時間目  
対象学年 : 6年生(1クラス) ※鑑賞については全学年  
実施教科 : 国語

アーティスト : 大蔵流狂言方 山本東次郎一門

### <実施にあたって>

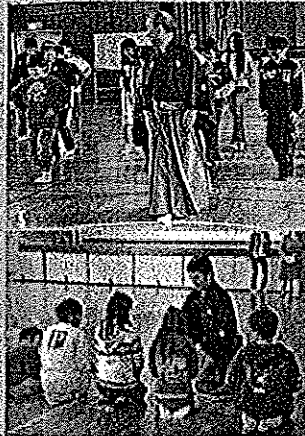
全校児童で、小学校6年生の国語の教科書に出ている「柿山伏」と、子どもにとっても分かりやすい「附子」の2つの狂言を鑑賞し、日本最古の喜劇である狂言の魅力・面白さを子供達に実感してもらった後、演者から狂言についてのお話を聞きます。授業での狂言の学習を終えている6年生には、扇の使い方や立ち居振る舞いを実際に体験し、日本の伝統芸能の世界観により深く触れてもらいます。

### プログラムの実施



【3～4時間目】  
狂言の鑑賞  
『柿山伏』『附子』  
狂言のお話し

教科書に載っている『柿山伏』と『附子』を全学年で鑑賞しました。2本で約40分、低学年の子どもたちも、最後までしっかり集中して観ていました。その後のお話では、狂言は愚かな人間が描かれているのではなくて人間の愚かさが描かれているということや、狂言は想像力や感じ方で楽しく鑑賞するものだということ、また、狂言は科白劇であって「言葉」をととても大切にしていること、そして、その言葉には、人の心を変えてしまうほどの力があることが東次郎先生によって語られました。子どもたちは狂言を知ることによって言葉の大切さを感じたようです。



上段写真: いちょう小学校  
下段写真: 高舟台小学校

【5時間目】

### ワークショップ

5時間目は、6年生を対象に狂言の所作を体験しました。狂言の所作は、誰もが通常の生活の中で行っている動作が基本。それでも、狂言師の皆さんのように、上体を動かすことなく歩いたり走ったりすることはとても難しく、また、扇を開くだけでも、思うようには開いてくれないことに驚いていました。「小さな頃からずっと稽古をしてきてるんだよ。」という言葉に、子どもたちの心にも、「伝統」の意味や重みが伝わっていたようです。

### 先生から

- ・低学年の子ども達には言葉やお話しが難しいかな、と思っていましたが、みんなが笑うべきところで笑い、集中して見入っている様子を見て、本当に良い機会を与えていただいたと感謝しています。
- ・言葉がわからなくても、狂言師の皆さんの演技で、動きそのものを楽しんでいました。
- ・子どもたち自身が面白いと感じる場面が違うことに、私自身が気づくことができ、子どもの心の豊かさに感動しました。
- ・子どもたちみんなが楽しかったと話している様子を見聞きして、本物に触れさせることの大切さを痛感しました。教科書だけでは、今回の感動は得られなかったと思いますし、古典文学の学習への啓発にもつながったと思います。

### プログラムを振り返って

### 児童から

- ・教科書で勉強したときには、あんなに迫力のある声が出ていたとは思いませんでした。すごかったです！
- ・ことばはわからなかったけれど、見ているだけで楽しかったです。
- ・(鑑賞してから)ワークショップで笑い方や泣き方などやってみたけれど、なかなかできませんでした。やっぱりプロの人は違うなあ、と思いました。
- ・難しいイメージがあったけど、実際に見てみて、笑いもあって楽しいなあ、というイメージが変わりました。
- ・最初勉強したときは「つまらない」と思ったけど、こんなに狂言で楽しいんだな、と思いました。
- ・ただ「室町時代にできた劇」としか思わなかったけど、言葉使いは昔のままだけど、とても面白くてびっくりしました。

## 美術 — エコロジカルアート

自然の中にある素材を利用した立体造形で、自然とアートに触れる

実施校 : 横浜市立東小学校  
日時 : 平成18年11月8日(水)、11月15日(水)  
11月17日(金) 各日3~4時間目  
対象学年 : 5年生(1クラス)  
実施教科 : 総合学習  
アーティスト : 笹井弘

### <実施にあたって>

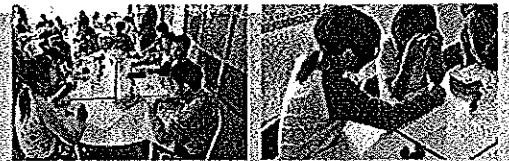
自然界にある素材を利用した作品制作を通じて、自然に対する興味や関心を育み、自然の持つ力の面白さに気づいてもらうことを目指しました。プログラムは、素材として選択した松笠を、子どもたち自身で集めてくることからスタートし、期待感と自然への興味を高めていきました。松笠が水にぬれると笠を閉じるという性質を利用した作品作りを通じて自然界の力や事象を観察し、気づいたことや感じたことをまとめ、その力を利用した創造による工作や展示方法を考えていきました。

### プログラムの実施



【1~2日目】 松笠は未来のエネルギー源？  
松笠が濡れると閉じる・乾くと開く性質を利用した「足の動くクモ」と「Mr. スロー」を作ってみました。竹ひごを火に近づけ、熱の力で曲げてクモの足を作ったり、接着剤を固めて顔のパーツを作ったり、自然の持つ力を使いつつ、創造力を働かせながら、ひとりひとり、個性ある作品を作り上げました。  
2日目の休み時間には、自然界にあるものを使って作られた、笹井先生の作品で遊び、風で猫じゃらしが飛んだり、くるくると回ったりする様子を見て、自然の持つ力について考えていきました。

【3日目】 松笠で何ができるかな？  
前回までに学習した、松笠の性質や構造を利用した、新しいアートのアイデアと、みんなで作った37個の「動くクモ」を校内で展示するためのアイデアを一人一人が考えて絵にしていきました。その後、個々のアイデアをグループ内で検討し、みんなが一番良いと思うものを、クラスのみんなに向けて発表しました。小さなものから、大きなものまで色々なアイデアが飛び出しました。



### プログラムを振り返って

先生から

- ・ 始めて耳にする「エコロジカルアート」に、疑問いっぱい、当初はとまどっている様子でしたが、始まると熱心に取り組んでいたように感じました。
- ・ 2日目と3日目の間が2日間でしたが、間隔が短いことで活動が途切れずに良かったと思います。
- ・ 普段できない貴重な経験をさせていただきました。

児童から

- ・ あまり松笠では遊んだことがなかったので、松笠で遊べてよかった。松笠にこんなつかいみちがあるとは思わなかった。
- ・ くもを作るときの、たけひごを曲げるのがとてもむずかしかったです。だけど、だんだんやっているうちにコツがつかめました。
- ・ みんなに完成をみせたら「バランスが悪いね」といわれました(ショック)。でも、楽しいし、おもしろかったです。またやりたいです。

## 伝統芸能 — 民族舞踊

先人たちの自然の中での季節感溢れる生活を身体で表現する

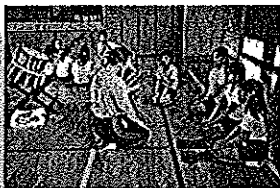
実施校 : 横浜市立南舞岡小学校  
日 時 : 平成18年11月16日(木) 3~4時間目  
          12月5日(火) 3~4時間目  
          12月9日(土) 4時間目  
対象学年 : 4年生(2クラス)  
実施教科 : 総合学習  
アーティスト : 荒馬座

### <実施にあたって>

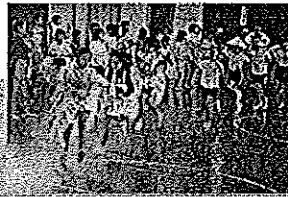
南舞岡小学校で実施している「荒馬踊り」のプログラムは、3年前の4年生(現6年生)が、自分達の「1/2成人式」への取り組みとして始めたものになります。その様子を見た昨年の4年生(現5年生)が、自分達も取り組みたいと自発的に希望し、学校行事の「収穫祭」にあわせて取り組んでいるものです。「収穫祭」は、5年生が学校近くの田んぼを借りて育てたお米の収穫に合わせて開催されるもので、「荒馬踊り」も働き者の農耕馬とその手綱を取る女性達の踊りであることから、共に農耕文化に根ざす日本の伝統を体感して学習する機会となっています。実施に向けて、上級生達が4年生に踊りを教える機会もあり、学年を超えた取り組みとしても活かされています。

### プログラムの実施

【1日目】どんな踊りなのか知ろう  
荒馬座の講師から田植えのお話を聞き、まず田植えの踊りを体験してみました。機械を使う今と違って、昔はどんなに馬が大切な役割を果していたかを感じ取っていました。その後、踊りとお囃子に分かれて荒馬踊りの基本練習をしました。



【2日目】  
隊形をつくれるようになるう  
全体で荒馬踊りの構成を覚えまし  
た。ハネトと荒馬の担当はシーンに  
合わせて隊形を変えながら踊りがき  
ちんとできるように、お囃子は踊り  
を見ながら演奏できるように練習し  
ました。だんだんと形になってゆく  
喜びから、より積極的に取り組んで  
くれました。



【3日目】いよいよ収穫祭!  
自分達で作成した小道具を身に着け  
て元気いっぱい練習の成果を発揮  
できただけでなく、自分と違うグル  
ープの発表も「ラッセラー。ラッ  
セラー」と大きな掛け声を挙げて  
真剣に応援する姿を見せてくれまし  
た。場内はとても盛り上がり発表会  
は大成功  
でした。



### プログラムを振り返って

先生から

- ・ ワークショップ以外の日も掛け声をかけたり飛び跳ねたり、毎日本番に向け楽しんで練習していました。
- ・ 一人ひとりが、やる気を持ち、生き生きと取り組んでいたと思います。
- ・ 学校の取り組みとして、4年生になると「当然自分達も踊るもの」という意識があるようです。上級生達も、下級生達に教えることを楽しみながら取り組んでくれました。

児童から

- ・ かもしか跳びや新しい踊りを覚えるときが楽しかった。
- ・ みんなで合わせて最後まで通して踊ったときが一番楽しかった。
- ・ もっと難しいのもしてみたい。
- ・ 本番に練習の成果が思いっきり出せてよかった。
- ・ 体力がちょっとついて、息が切れそうでもがんばれた。
- ・ 練習するからこそ上手になれると思ってやる気を出せた。

## 演劇 — 朗読劇

「みんなちがって、みんないい」 それぞれに合った表現をさがしてみる

実施校 : 横浜市立日吉台小学校  
日時 : 平成18年11月24日(金)、12月1日(金)  
12月4日(月) 各日1~4時間目  
対象学年 : 6年生(4クラス)  
実施教科 : 総合学習  
アーティスト : 吉村温子

### <実施にあたって>

日吉台小学校では、以前から学校内での「ダンスコンテスト」などを通じて、創意工夫や表現する力を高めることを目指しています。今回のプログラムでも、そうして育まれてきた力をさらに伸ばす契機となることを期待されていました。そのため、実施プログラムとしては朗読劇を中心としつつ、演劇のもつ多様な表現形態を体験し、子どもたちそれぞれが自分にあった表現方法を見つけてもらえることを目指しました。

### プログラムの実施

#### 【1日目】 演劇って何？

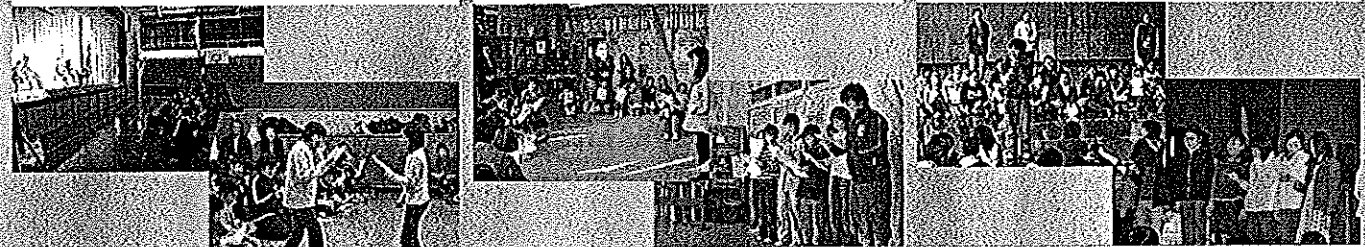
朗読劇・オペレッタなど、演劇にも色々な形や表現の仕方があることを知ってもらいました。ゲーム形式で、自然に声を出し、表現することに体験しました。友達の後を追いかけて、真似をしたりしているうちに、子どもたちの中から、それぞれ違う表現が生まれてきました。

#### 【2日目】

五感で遊ぶ「耳で観る？」  
もっと声を出して、もっと表現してみるため、グループに分かれて詩の朗読をしました。グループごとに詩を選び、抑揚やテンポを変え、効果音をつけて、オリジナルの演出を考えてみました。

#### 【3日目】

みんなちがってみんないい  
グループでごとに考えた演出の中から、クラスの代表作を選んで発表しあいました。発表の途中に、以前の学校行事で各クラスで創作したダンスを発表してもらい、様々な身体表現を同時に体験しました。



### プログラムを振り返って

#### 先生から

- 子どもたちが表現することの良さや楽しさを感じていた。プログラム中、普段より明るい子、活き活きした様子を見せていた子どもたちも多かった。
- これまでテーマとして取り組んできた「表現すること」にぴったり合ったプログラムだった。
- 開始前は、内容に理解しにくい部分があり、積極的に提案をすることなどが難しかったが、参加してみると色々気づく部分があり、今後の参考になることが多かった。

#### 児童から

- クラスで1つの劇、特に朗読劇をやってみたい。
- いろいろな表現方法があるのだなあということを知りました。
- 最初は、むずかしそうだなと思っていました。でも、劇を見て、実際やってみたりすると、楽しくて、自分でも発表してみたくくなりました。
- 授業はすごく楽しくて、ふだん、あんまり大きな声を出さない私ですが、楽しくて家で弟とケンカしている時のような声が出せました。

## 伝統芸能 — 落語

「舞岡寄席」で、日本の大衆芸能に触れよう

実施校 : 横浜市立舞岡小学校  
日時 : 平成18年11月29日(水) 1～4時間目  
対象学年 : 6年生(2クラス) ※鑑賞は、全校で実施  
実施教科 : 行事・総合(国語科の発展)  
アーティスト : 雷門助六、鏡味正二郎、三笑亭可女次

### <実施にあたって>

今年度で創立20周年となる舞岡小学校では、各種の記念行事を通じて、異学年交流を行い、学校としての一体感とみんなで協力することの大切さを学習してきました。今回のプログラムでも、大衆芸の場である「寄席」を体験する部分は全校で参加してもらいました。また、個々の演者の芸に触れる部分でも、実際に体験した6年生が総合的な学習の時間やその他の交流の際に、他の学年へ習い覚えた芸を伝えられたらと考えました。

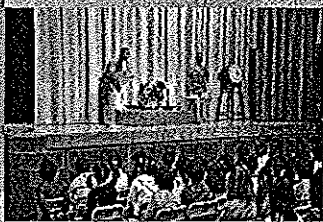
### プログラムの実施

#### 【1～2時間目】

高座にめぐりに出囃子と一式揃った「寄席」で、落語と色物(曲芸)を全校で鑑賞しました。はじめて見る生の演芸に、最初から最後まで、驚きながら笑いが途切れませんでした。演目の合間の、噺や江戸時代についてのレクチャーにもしっかり耳を傾けていて、曲芸と太鼓の体験も楽しみながらできていました。

#### 【3～4時間目】

後半は、場所を移して6年生たちに、寄席芸の色々を体験してもらいました。扇子をもって高座に上がった「小噺」の子どもたちは、上がる前の緊張感と、笑いが取れた後の達成感がひしひしと伝わってきました。全員で挑戦した「紙立て」の曲芸では、最後のクラス対抗で大いに盛り上がりました。また、落語家の弟子入りと修行の話では、芸を磨く過程の大変さを感じ取ってくれていました。



先生から

- どの学年の子どもたちも、演者の芸にストレートに反応して、楽しんでいたため、90分近くの鑑賞にしっかりついてきていた。
- ステージに上がった子どもたちが、普段よりしっかりしていたように見えたが、芸に引き込まれ、集中していたためだと思う。
- 子どもたちにとって、演者たちの芸に加え、弟子入りや普段の修行の話といった、芸人としての態度や芸を磨くことについて聞いたことも良い体験になった。

### プログラムを振り返って

児童から

- 落語を見るのは初めてで、最初は難しそうなイメージがありました。しかし、見る人に語りかけるように話してくださり、自然に話を聞いているようなイメージになりました。
- (実演させてもらった)小噺は、本当に少しだけなのに大爆笑でした。知っているはずなのに、おもしろかったです。
- 色々な曲芸にとっても感動しました。ぼくたちが鼻に紙を立てる体験をしたとき、すごく難しかったので、曲芸の大変さが分かりました。



## 音楽 — 作曲

言葉が、読みが、語りが、音楽になっていく

実施校 : 横浜市立新鶴見小学校  
日時 : 平成18年11月21日(火)、11月30日(木)  
12月5日(火)、12月12日(火)  
各日3~4時間目  
対象学年 : 4年生(1クラス)  
実施教科 : 音楽  
アーティスト : 鶴見幸代

### <実施にあたって>

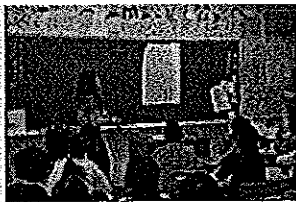
「作曲」というと、とても専門的な技術を要する作業のように感じます。しかし、文字を読んだり、ただ声に出して話すのは、誰でもできる作業であり、そこに抑揚や拍子に変化をつけていけば、自然に音楽に近づいていきます。江戸時代の「かわら版売り」が、独自のリズムで読み上げながらかわら版を売っていたのにならって、歌以前の「言葉・読み・語り」をベースに、音読にリズムをつけいくことで、日記を書くような手軽さで作曲をしていきました。

### プログラムの実施

#### 【1日目】

#### 言葉遊びは、和製ラップ

言葉遊びの要素を持った、リズムカルな歌の練習からスタート。呪文のような歌詞にとまどいながら、元気に歌っていました。次回に作曲に挑戦する、テキスト色々なパターンで読んで、イメージを膨らませました。



#### 【2日目、3日目】

#### 楽器も入って、曲が完成!

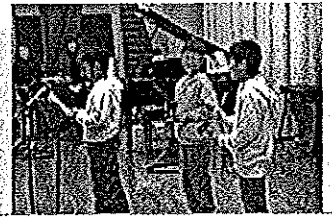
言葉遊びの歌は、歌詞が頭に入ってくるのに比例して、ドンドン声が出てきました。グループごとに考えたオリジナルのリズムを、試行錯誤しながら、テキストに当てはめていくと、自然にオリジナルの曲ができあがりました。発表に向けて、楽器と歌の練習が続きます。



#### 【4日目】

#### いよいよ発表会

発表は、体育館でほかの学年を観客に実施しました。みんなで歌う言葉遊びの歌から始まって、各グループごとの発表と、発表しなかった作品を講師が演奏しました。緊張しながらも、各グループしっかり発表できました。



### プログラムを振り返って

#### 先生から

- ・ 少しずつ自分なりの曲ができあがり、作品に自信が表現する楽しさを感じたようでした。
- ・ 子どもたちにとって、とてもよい経験になったと思います。

#### 児童から

- ・ 発表するときはすっごくきんちょうしたけど、前にでたらあたまの中がまっしろになって、口と手だけががってに動いていました! だけど、うまくいったので、よかったです!!
- ・ こんどは、自分たちで“詩”を作って、えんそうをしてみたいです。後、歌もつくって、みんなであうたしてみたいです。

## 演劇 — パントマイム

### 身体で作る「4コマ漫画」

実施校 : 横浜市立浦島小学校  
日時 : 平成18年12月14日(木)、12月18日(月)  
12月19日(火) 1~4時間目  
対象学年 : 5年生(2クラス)  
実施教科 : 総合学習  
アーティスト : すがぼん

#### <実施にあたって>

パントマイムの体験は、ほとんどの子どもたちにとって未知の動作や姿勢を要求し、普段はしたことのない表現に接することになります。それらの体験を通じて、子どもたちの「身体」と「こころ」を開放していきます。さらに、講師による多彩なパントマイムのテクニックを見て、実際に自分の身体の稼動範囲の限界を比べることで、人間の身体とその表現能力の可能性に気づいてもらうことを目指します。

#### プログラムの実施

##### 【1日目】

身体がどこまで動かな  
講師のパフォーマンスを見て、  
パントマイムの動きの不思議  
さにびっくり。柔軟体操から、  
マイムの基本動作に移ってい  
くと、自分の身体の「動かなさ」  
や「不自由さ」に気づきました。



##### 【2日目】

##### ドンドン表現してみよう

1日目に覚えた「壁」や「階段」  
などの基本動作と、それぞれのア  
イデアを組み合わせて、いろい  
ろな動きやモノを表現してい  
きました。「動物園」や、色々なこと  
の起こる「3つの部屋」の状況などを、  
身体の動きだけで、見ている人に  
伝える工夫を考えました。



##### 【3日目】

##### マイムで作る4コマ漫画

1枚の絵画を見て、そのシーンに  
繋がるストーリーを考えて、ポ  
ーズで表現する「4コマ漫画」に仕  
上げました。一目瞭然なコマか  
ら、難解なコマまで、枠にとらわ  
れない動きが、たくさん生まれ  
ました。



#### 先生から

- ・ 子どもたちの目に輝きがあり、生き生きとしたすばらしい表情をしていました。
- ・ 子どもたちが自由に身体を使って表現できたことにとっても感心しました。子どもたちの可能性を引出していただいたことに感謝しています。
- ・ 3日間の指導を通じて、子どもたちも講師の方に親しみ、とても意欲的に楽しく活動することができました。
- ・ プログラム後も、教室でパントマイムの話題になったり、他の学年の前で見せたりしています。

#### プログラムを振り返って

#### 児童から

- ・ 実際には無いのに、あると思ってやるのが楽しかったし、おもしろかったです。
- ・ 徐々にレベルを上げていくので、わかりやすく、やりやすかった。基本から応用(自分で考えること)までやったので、とてもおもしろかった。
- ・ とても楽しくて、かんがえていくほどおもしろくできました。4コマの時なんか、もう考えがあふれていたもので、やりたいほうだいでした。
- ・ 今度は、他の学年の人たちに、発表をしてあげたいです。

## 舞踊 — コンテンポラリー・ダンス

からだの可能性を発見！

実施校 : 横浜市立一本松小学校  
日時 : 平成18年12月6日(水)、12月8日(金)  
平成19年1月11日(木)、1月12日(金)  
各日3~4時間目  
対象学年 : 2年生(1クラス)  
実施教科 : 総合学習  
アーティスト : 東野祥子

### <実施にあたって>

この実施クラスでは、1年生の音楽の授業の中でリトミックを体験しています。その経験を活用し、表現力や想像力をさらに広げるきっかけとなること、このプログラムに期待されています。そのため、プログラムでは、子どもたちが自分の身体の可能性に気づき、こころと身体を解放して自由にのびのび動けるようになることを目指します。

### プログラムの実施

#### 【1日目】

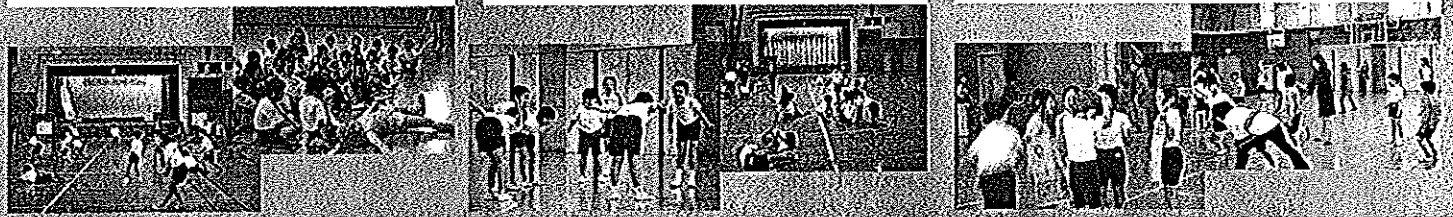
はじめは身体をほぐして講師のパフォーマンスにビックリした後に、寒い体育館で怪我防止のため、しっかりストレッチ。色々なポーズをつけながら動く「ダルマさんが転んだ」では、みんなで歓声をあげながら、飛び跳ねていました。

#### 【2、3日目】

身体に合わせてまずは、気持ちの開放をかねたストレッチからスタート。二人一組や数名ずつのグループで、リーダーの動きをまねをしていたり、ことばのイメージや、普段耳にしないような音楽に合わせて、自由に動きながら色々な表現を考えてみました。

#### 【4日目】

講師の演奏と、リズムに触れるみんながお気に入りの「ダルマさんが転んだ」でテンションをアップ。グループごとに、イラストのイメージや、小道具を持って、自由に動きを考えてみました。その後は、みんなで輪になって、お互いの身体の動きを見学。保護者も参加したラストパフォーマンスは大いに盛り上がりました。



### プログラムを振り返って

#### 先生から

- ・ (普段の授業と比べて) 子どもたちは、日常とあまり変わらず、伸び伸びと活動できていました。
- ・ 「ことば」のイメージで動くプログラムは、2年生の実態から考えると、少し難しい内容だったため、子どもたちに戸惑いが見えました。
- ・ 冬休みを挟まずに実施できていたら、より動きに広がりがでたと思います。
- ・ 講師の動きは素晴らしく、子どもたちも私も見入ってしまいました。貴重な機会をありがとうございました。

#### 児童から

- ・ まねっこがむずかしかった。
- ・ つきは、「だるまさんがころんだ」におんがくをかけてやりたいです。
- ・ 体があつたかくなって、たのしいおどりがしたいです。
- ・ 「だるまさんがころんだ」と、さいごに、おかあさんと先生とクラスのみんなで、えがおでおどれて、たのしかったです。
- ・ みんなのまえでおどるのが、はずかしかった。でも、さいごははずかしくなかった。

---

## 美術 — 仮面

---

実施校 : 横浜市立篠原小学校  
日時 : 平成18年12月15日(金)  
平成19年1月16日(火)、1月18日(月)  
2月6日(木) 各日1～4時間目  
対象学年 : 3年生(3クラス)  
実施教科 : 総合学習  
アーティスト : 関野公子、吉岡紗矢

### <実施にあたって>

厚紙の土台に、毛糸や不要なチラシ類などの身の回りにある素材を使って演劇用の仮面を製作します。仮面は、既存のキャラクターなどではなく、「遠くのものまで見える」とか「小さな音も聞こえる」といったテーマを、子どもたちの自由な発想で飾りつけをしていきます。完成した仮面を使って、身体で表現するテクニックを学び、お互いの仮面からイメージを膨らませた物語を、グループで考えていきます。

---

## 音楽 — 邦楽

---

実施校 : 横浜市立汐入小学校  
日時 : 平成19年1月10日(水)、1月17日(水)  
1月30日(火) 各日3～4時間目  
対象学年 : 6年生(1クラス)  
実施教科 : 音楽  
アーティスト : 奥田雅楽之一

### <実施にあたって>

邦楽は、近年小・中学校のカリキュラムにも取り入れられていますが、まだまだ実際に触れる機会の少ないのも実情です。このプログラムでは、日本の代表的な楽器である「箏」を通じて、邦楽のもつ独特のリズムや音を感じとり、日本の音とは何かについて考えていきます。

## 音楽 — ジャズ

---

実施校 : 横浜市立六つ川台小学校  
日時 : 平成19年2月2日(金)、2月9日(金)  
2月16日(金) 各日1~4時間目  
対象学年 : 4年生(2クラス)  
実施教科 : 音楽  
アーティスト : ユキ・アリマサ

### <実施にあたって>

横浜は「日本のジャズのふるさと」と言われ、毎年10月には日本最大級のジャズ・フェスティバルである「横浜ジャズプロムナード」が実施されています。しかし、子どもたちにとって、ジャズに直接触れる機会がそれほど多いわけではないのも事実です。そこで、「ジャズの街」で生まれた子どもたちに、ジャズを身近に感じられるように、分かりやすいブルースのリフ(シンプルな繰り返しメロディー)を通じて、どんな音楽なのかを体で感じ取ってもらえるプログラムを目指します。

## 音楽 — 声楽

---

実施校 : 横浜市立汐見台小学校  
日時 : 平成19年2月5日(月)、2月9日(金)  
2月23日(金)  
対象学年 : 5・6年生(4クラス)  
実施教科 : 音楽  
アーティスト : 鈴木慶江

### <実施にあたって>

邦楽は、近年小・中学校のカリキュラムにも取り入れられていますが、まだまだ実際に触れる機会の少ないのも実情です。このプログラムでは、日本の代表的な楽器である「箏」を通じて、邦楽のもつ独特のリズムや音を感じとり、日本の音とは何かについて考えていきます。

## 音楽 — ゴスペル

実施校 : 横浜市立原小学校  
日時 : 平成19年2月7日(水)、2月8日(木)  
2月13日(火)、2月15日(木)  
対象学年 : 5年生(5クラス)  
実施教科 : 音楽  
アーティスト : 河原厚子

### <実施にあたって>

子どもたちに、「ゴスペル」の持つリズムやハーモニーの美しさを体験してもらいます。ゴスペルの歌詞にこめられた歴史や背景を知ること、曲への親近感が生まれます。また、歌うことの基本に立ち返るため、自分の耳で聞き取って作ったオリジナルの譜面で曲を覚えていきます。そして、「楽しく歌うこと」、「歌を好きになること」が、歌う時に最も重要なことであり、本当の意味での「上手に歌うこと」に繋がることを覚えてもらいたいと思います。

◆平成18年度 横浜市芸術文化教育プログラム推進事業ラインナップ

|    | 実施時期  | 小学校名   | 学年   | クラス | 実施内容                  | アーティスト<br>(講師) | 内容  |
|----|---|--------|------|-----|-----------------------|----------------|---|
| 1  | 7/10(月)<br>9/11(月)<br>9/22(金)<br>9/29(金)    | 北方小    | 3年   | 3   | 美術<br>パペト人形<br>(制作と劇) | 中村信子           | カラフルなウレタンを材料に、指人形や手のひらサイズまでの人形を制作します。自分で制作したものを利用し、物語を考えたり、演じ手の役者との掛け合いを楽しみます。  |
| 2  | 7/11(火)                                     | 南神大寺小  | 1年   | 2   | 美術(似顔絵)               | 黒田晃弘           | 木炭の使い方等のアドバイスをを行った後、子供たち同士で似顔絵を描きます。<br>似顔絵を単に似せるだけでなく、相手に対するイメージと併せて描くことで、他者を観察しコミュニケーションを深め、理解する姿勢を学び、子どもひとりひとりの感性を活かします。 |
| 3  | 7/12(水)                                     | 上白根小   | 6年   | 4   |                       |                |   |
| 4  | 7/14(金)                                     | 下野庭小   | 3年   | 3   |                       |                |   |
| 5  | 9/8(金)<br>9/12(火)<br>9/15(金)                | 俣野小    | 4年   | 1   | 音楽(ジャズ)               | ユキ・アリマサ        | 手拍子などのリズムを使って簡単に作曲。音の強弱によって流れが作りだされ、アドリブで曲ができることを体験。  |
| 6  | 9/16(土)                                     | 中田小    | 4年   | 3   | 舞踊(琉球)                | 琉球音楽協会         | 琉球舞踊の舞踊家、琉球音楽の演奏家を派遣し、三絃と舞踊を体験します。  |
| 7  | 10/6(金)<br>10/16(月)                         | 永田小    | 6年   | 1   | 美術<br>(市民ギャラリーとの連携)   | 眞田岳彦           | 財団主催展覧会の出品作家とともに、作品制作に取り組んだり、内容によっては、子どもたちの作った個々の作品を出品作家がひとつの作品にまとめあげます。  |
| 8  | 11/1(水)<br>11/8(水)<br>11/14(火)<br>11/28(火)  | 桂台小    | 1年   | 2   | 音楽(器楽)                | 古橋孝之           | 身近な材料を使った楽器作りや、学校にある楽器を利用し、楽器の仕組みや歴史を理解し、音の楽しさやリズム等を楽しみます。  |
| 9  | 11/20(月)                                    | 高舟台小   | 6年   | 2   | 伝統芸能<br>(狂言)          | 山本東次郎          | 狂言方を派遣して、6年生の国語の教科書に登場する「柿山伏」を見てもらった後、教科書に併せてワークショップを開催。  |
| 10 | 11/22(水)                                    | いちょう小  | 6年   | 1   |                       |                |   |
| 11 | 11/8(水)<br>11/15(水)<br>11/17(金)             | 東小     | 5年   | 1   | 美術<br>(エコジカブ7-ト)      | 笹井弘            | 自然の中にある素材を利用した立体造形の制作を通し、地球のこと、自然のこと、生き物のこと、そして自分のことに気付くワークショップ。  |
| 12 | 11/16(木)<br>12/5(火)<br>12/9(土)              | 南舞岡小   | 4年   | 2   | 舞踊<br>(民族舞踊)          | 荒馬座            | 荒馬踊りや、獅子舞など、日本の伝統的な踊りを体験します。<br>日本古来から伝わる芸能文化は、地域と密接な関わりを持っており、その歴史なども学んでいきます。  |
| 13 | 11/24(金)<br>12/1(金)<br>12/4(月)              | 日吉台小   | 6年   | 4   | 演劇<br>(朗読劇)           | 市民メセナ協議会       | シアター・ゲームとテキストを使用し、普段何気なく使っている声や言葉の力について考え、想像することや演劇の楽しさ、面白さを体験します。  |
| 14 | 11/29(水)                                    | 舞岡小    | 6年   | 2   | 伝統芸能(寄席)              | 雷門助六           | 落語、講談、曲芸、奇術などの大衆芸能の入門と体験。簡単な発表会も開催します。  |
| 15 | 11/21(火)<br>11/30(木)<br>12/5(火)<br>12/12(火) | 新鶴見小   | 4年   | 1   | 音楽(作曲)                | 鶴見幸代           | 作曲家を派遣。子どもたちとともに日常の出来事を歌にしていきます。最終回では、完成した曲を参加者全員で歌唱・演奏することを目標にします。   |
| 16 | 12/14(木)<br>12/18(月)<br>12/19(火)            | 浦島小    | 5年   | 2   | 演劇<br>(パantom)        | すがぼん           | 身体の動きで様々な事柄を表現するパantomを体験します。<br>自分の身体が自由に動くことを楽しむ中、お互いが演じているものを発表したり、鑑賞します。  |
| 17 | 12/15(金)<br>1/16(火)<br>1/23(火)<br>2/6(木)    | 篠原小    | 3年   | 3   | 美術(仮面)                | 関野公子/吉岡紗矢      | 身近な材料で(土台はダンボール、装飾は毛糸、チラシ等)仮面をつくり、寸劇を楽しむ。<br>小道具もダンボールで作ります。  |
| 18 | 12/6(水)<br>12/8(金)<br>1/11(木)<br>1/12(金)    | 一本松小   | 2年   | 1   | 舞踊<br>(コンテンポラリーダンス)   | 東野祥子           | 決まった型や決まった音楽・リズムに拘わることなく、自由に身体を使って表現します。<br>表現することを楽しみ、子ども達のリズム感や表現力を引出していきます。  |
| 19 | 1/10(水)<br>1/17(水)<br>1/30(火)               | 汐入小    | 6年   | 1   | 音楽(邦楽)                | 奥田雅楽之一         | 日本の伝統芸能楽器(箏、三味線、尺八、篠笛、太鼓、鼓など)の楽器に触れてもらい、普段触れる機会の少ない楽器の独特のリズムや音を感じていきます。楽器によっては、自分で制作することも可能。                                |
| 20 | 2/2(金)<br>2/9(金)<br>2/16(金)                 | 六つ川台小  | 4年   | 2   | 音楽(ジャズ)               | ユキ・アリマサ        | 5と同プログラム  |
| 21 | 2/5(月)<br>2/9(金)<br>2/23(金)                 | 汐見台小学校 | 5・6年 | 4   | 音楽(声)                 | 鈴木慶江           | オペラ歌手を講師に、プロの声量や発声法などを身近に感じながら、「声」を使って音楽の楽しさや美しさを体験します。   |
| 22 | 2/7(水)<br>2/8(木)<br>2/13(火)<br>2/15(木)      | 原小     | 5年   | 5   | 音楽(ゴスペル)              | 河原厚子           | プロのゴスペル歌手の声量や発声法などを身近に感じながら、リズムの楽しさ、ハーモニーの美しさ、そして「歌うこと」そのものの魅力を体験します。   |

### シンポジウムへの参加にあたって

システムとはなんと不条理なものかと思う時があります。たとえば交通手段のシステムのひとつに駅があります。駅では毎日、何千何万という人が行き交います。ですがこれは「出会い」ではありません、ただ人は行き交うのみです。私の芸術表現の手段は「似顔絵」です、使用するのは紙と木炭のみです。ですが私はその行為の中に「出会い」を刻印します。モデルになる人と会話をし、その人の人間性に触れ、内面を観察します。生まれた作品はその人と私が出会った証でありお互いの思い出です。「似顔絵」という出会いはとてもダイレクトに互いのところどころが触れあうことが出来るのです。この単純な行為は現代社会の希薄な人間関係においてコミュニケーションを結ぶアートとしてとても重要であると思うのです。

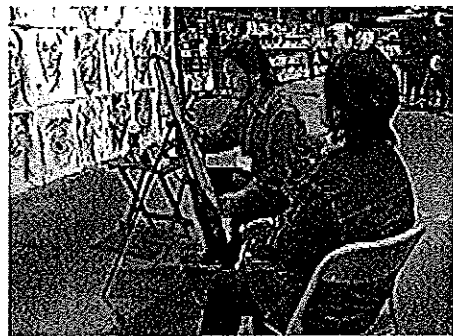
黒田 晃弘

#### [プロフィール]

1970 年北海道生まれ。札幌市在住。2000 年より黒田一人による芸術文化向上委員会「lopnor」の活動を開始。さまざまなイベントや展覧会などを企画・制作する。他者との関係生成のきっかけとして「似顔絵描き」をはじめ、最近ではそれが主要な表現活動、兼自身の生活の一部となりつつある。この「似顔絵描き」から、昨年開催された「横浜トリエンナーレ 2005」に招聘される。

#### [主な展覧会活動]

- 「和の方程式」  
(2001 年、アリアンフランセース、札幌)
- 「A MUSE LAND 2003」  
(2003 年、北海道立近代美術館)
- 「じゃっくろどっとこむ」  
(2005 年、CAI ギャラリー、札幌)
- 「横浜トリエンナーレ 2005」  
(2005 年、山下ふ頭、横浜)
- 「ANGIKAR」  
(2006、ダッカ大学、バングラデシュ、ダッカ)



(横浜トリエンナーレ 2005 の模様)



## 黒田晃弘氏について

2000年より黒田独りによる芸術文化向上委員会「Iopnor」の活動を開始、さまざまなイベントや展覧会、パーティーなどを企画制作する。あるとき、病床にあった知人のためになにができるか考えて「似顔絵」を描いたことから、他者との関係生成のきっかけとして「似顔絵描き」を始め、最近ではそれが主要な表現活動、かつ自身の生活の一部となりつつある。

「似顔絵描き」を生活の糧ともする黒田だが、たとえば漫画風、あるいは写実風と自らのスタイルを確立し、そのスタイルで売るのは全くない。むしろそのスタイルさえ、自身と相手の関係性によって自由に変化させていくから、彼の似顔絵を並べてみれば、あまりの不統一に戸惑うだろう。

イーゼルを立て、紙に木炭で描くその行為は、伝統的な人物デッサンと呼ぶほうが適切だが、彼はこうしたデッサンを他者とのつながりを生み出していくための道具としてしかとらえていないから、黒田のことはあえて「似顔絵描き」と紹介したい。彼はデッサン室でなく、ストリートに「画家とモデル」の関係を持ち込んでいるわけで、その対一の真剣勝負は、彼が活動の拠点を置く札幌でも、美術界より、多様な住民たちに強く支持されている。

今回、黒田は会期前の横浜市内や会期中の会場内で、ひたすら似顔絵を描きつづける。なるべく多くの人々と対話し、似顔絵を描き、そこから生まれる無数の小さな物語を、終わることなく連鎖させていくだろう。

横浜トリエンナーレ 2005 キュレーター  
芹 沢 高 志

2006年東京都立川市で市民と行政が協働で開催した立川国際芸術祭 2006～Face～。

テーマ～Face～は、人々の心を癒し平和でやさしさにあふれた文化・芸術の豊かな空間のあるまちづくりのため、多様な人々との連携・協働で、アートの持つ力と魅力で好奇心と創造性を発揮できる“大好きな街立川”の新しいコミュニティの創造を目指した。

ここで黒田晃弘氏は似顔絵を描いた。

この似顔絵の連鎖と蓄積は、社会奉仕活動の証であり、黒田晃弘というアーティストとその純粋なアートの力が「美しい心」を必要とする社会に多様な効果をもたらしたことを証明するものである。

このプロジェクトにおいて、組織的に事業を進めた結果、社会福祉活動と結びつけられるコミュニティを多く生み、人々は、店や路上で行う似顔絵描きを心のよりどころとして何度も訪れた。黒田氏の似顔絵制作には、今までにアートに触れることのなかった庶民たちとの多くの対話や交流を生む力がある。人々は、何かを伝えたい、自分の存在感を得たい、どう見られるか、見せたいかという欲求を似顔絵によって追求しているとも見える。

家族・恋人・友人・親子・高齢者・身体障害者、多くの人が彼に似顔絵を描いてほしいと言った。

求めに応じ、こうした似顔絵を描く行為（表現活動）の中で、彼との対話が個人の尊厳に触れ、そして内面にあるお互いの感性を刺激する。彼のアートが対話を必要とし、また人は対話を求める。双方の心を通じあわせた事実が、表象として似顔絵となる。

この彼のアートは、人々の心に潤いをもたらし、社会に貢献した。なにより最も重要なのは、彼のアートによって、人々にとっての「心の対話」の重要性を証明したことである。

さらに、学校に出向き授業で行った「アーティストワークショップ」では、顔の概念を取り払い、似顔絵を描いていく過程で、子どもたちにクラスメイトとの五感を使ったコミュニケーションを体験させた。アーティストとの出会いで、子どもたちはすばらしい作品を完成した。

そして心を写す似顔絵の交流は2000人をこえた。

それは、まさにアーティスト黒田晃弘の魅力、そしてその芸術の力といえる。

立川国際芸術祭 2006～Face～ コミュニケーション・連携アート  
「黒田晃弘と描く1000人の顔」プロジェクトから

NPO 法人立川国際芸術祭 企画・プロデュース  
宮 田 由 香

## ◆平成 18 年度 横浜市芸術文化教育プログラム推進事業 参加アーティスト

### 中村信子（なかむら のぶこ）【人形劇俳優・美術家】

劇団風の子国際児童演劇研究所研究生を経てどんきい劇場に入団。公演活動の他、TV、映画（吉永小百合主演100本記念「つる」）操演。現在NHK「おかあさんといっしょ」人形操作レギュラー出演中。パペットワークショップとして総合学習の表現活動やPTA親子行事、幼稚園・保育園 その他コミュニティづくりのイベントなど様々な場所で開催している。

### ユキ・アリマサ【ジャズ・ピアニスト】

1961年、東京生まれ。1983年に玉川大学を卒業後、渡米。バークリー音楽大学でジャズピアノ演奏、作編曲を学ぶ。在学中、ピアニストとして、ハンクジョーンズ賞、デュークエリントン作曲賞を受賞。同校ピアノ科に助教授として勤務後、ピアニスト・作編曲家として、数々のジャズグループとともに演奏活動する。14年間のアメリカでの活動後、帰国。現在は、洗足学園音楽大学ジャズ科にてソルフェージュクラスを開設するとともに、ピアノ専攻のレッスンを担当。アメリカの小学校での出張授業の経験もあり、楽しみながらジャズの普及活動を行っている。

### 琉球音楽絃友会（りゅうきゅうおんがくげんゆうかい）

さまざまな歴史の変遷の中でも絶えることなく、歌い語り継がれてきた沖縄伝統芸能文化。琉球音楽絃友会は、その普及・継承を目的とする親睦団体。神奈川県川崎市を活動拠点とし、首都圏各所・仙台・新潟・沖縄・北カリフォルニアなどにも支部を設け、出身地も職業もさまざまな幅広い年齢層の200名あまりの会員が在籍している。音楽というジャンルを越え、三絃をはじめとする沖縄の文化・歴史・風習・言葉・心を学ぶことを目指している。絃友会を率いる名渡山兼一会長は、「古典音楽」においては国指定重要無形文化財〈組踊〉の地謡伝承者として認定され、「琉球民謡」においては、昭和の大家から学び得た技巧と心を、次の世代へ橋渡しする重要な存在となっている。2001年に川崎市文化勲章を受勲、03年には川崎市市民文化大使に委嘱。

### 眞田岳彦（さなだ たけひこ）【衣服造形家】

1962年東京都生まれ、在住。桑沢デザイン研究所研究科修了。（株）イッセイ・ミヤケ勤務後、イギリスで美術・彫刻を学ぶ。古代から人間が身にまとってきた獣毛や植物繊維を扱った作品を制作。各地でフィールド・プロジェクトも手がける。2004年「六本木クロッシング」（森美術館、東京）など展覧会多数。現在女子美術大学、同大学院助教授。桑沢デザイン研究所非常勤講師。1997年／「タッチング ポルトガル・日本 現代美術展」（佐賀町エキジビットスペース・東京）、2000年～／「フィールド・プロジェクト、ウール」（小岩井農・岩手）、2001年／「E12 生きるためのデザイン」（ハーバーフロントセンタ・トロントほか）、2002年／「開封 プレイク・ザ・シール」（ギャラリー東京ユマニテ・東京）、2002年／「振動を宿すもの」（メゾンエルメス 8階 フォーラ・東京）、2003年～／「フィールド・プロジェクト、アンギン（編衣）」（十日町市博物館・新潟）

#### **古橋孝之（ふるはし たかゆき）【トロンボーン奏者】**

国立音楽大学卒業。2002年夏、ニューヨーク州バッファローで開催されたアトランティック・ブラス・クインテット・セミナーにおいて、ベストトロンボーン賞を受賞。BLISS BRASS、Tadpole Trombones、アンサンブル・ヴァリエのメンバー。中学校でのブラスバンド指導にも当たっている。

#### **山本東次郎（やまもと とうじろう）【大蔵流・狂言方】**

大蔵流狂言方。1937年、故三世山本東次郎の長男として生まれる。型の美しさと高い精神性を追求する舞台は、狂言の持つ本質的な魅力を再確認させてくれる。紫綬褒章(1998年)、横浜文化賞(2004年)受賞。

#### **笹井弘（ささい ひろみ）【エコロジカルアート作家】**

1952年長野県生まれ。東京藝術大学・大学院卒業。野菜作りから土、植物、循環を身を持って体験する、生態学的なアートに取り組んでいる。本来動きとは縁遠い植物達を動かして、自然を喚起する表現内容のアートを目指す。

#### **民族歌舞団 荒馬座（みんぞくかぶだん あらうまざ）**

1996年創立。民族芸能の舞台公演を専門にしている劇団。首都圏を中心に年間350公演を行っている。東京都教職員研修センター「音楽分科会研修会」や都内の小学校研究会「音楽部会」等の講師を担当しているほか、東京学芸大学の「音楽技法研究」の特別講義も担当。

#### **吉村温子（よしむら あつこ）【女優・演出家】**

「青山のこどもの城」で、幼児から大人までを対象に幅広くユニークな音楽表現活動を展開。毎年お正月には、青山円形劇場で、参加型のオペレッタ公演の主演を勤める。コンサートや司会など多方面で活躍し、本の執筆も多数手がける。全国各地の子ども達とのドラマスクールや、ミュージカルづくりの現場に参加し、指導を行なっている。

#### **雷門助六（かみなりもん すけろく）【落語家】**

横浜市出身。落語芸術協会所属。1996年、九代目雷門助六を襲名。八代目の芸を受け継ぎ、「松ずくし」「寄席踊り（寄席の高座で演じられた踊り）」などの「寄席芸」の貴重な担い手である。

#### 鶴見幸代（つるみ さちよ）【作曲家】

東京芸術大学音楽学部作曲科卒業。2000年オランダのガウデアムス国際現代音楽週間にて佳作受賞。2002年武生国際作曲ワークショップの招待作曲家。2005年オスロ・ウルティマ現代音楽祭招待作曲家（ノルウェー）。西洋楽器から邦楽器、シリアス音楽から映画音楽・ポップス・民謡など、幅広いジャンルでの活動と、それらが混じり合った独特で新鮮な音楽性が国内外で高く評価されている。

#### すがぼん【パントマイマー】

本名：須賀令奈。東京都生まれ。日本マイム研究所在所中、数々の公演・イベントに参加。退所後は、マイム活動と同時に、テレビCM等に出演するなどソロ活動も展開している。1998年より水と油に参加。彼のコミカルでキザな演技は定評がある。'03年、江戸川区文化奨励賞受賞。

#### 関野公子（せきの きみこ）【美術製作家】

女子美術大学図案科卒業。舞台用仮面製作、舞台衣装デザイン。横浜ポートシアターの公演で使用する仮面のほかに青山円形劇場“人形姉妹”、武道館万人のコンサート“ヤマトタケル”、新国立劇場オペラ“タケル”、オペラ“黒塚”等の仮面製作。横浜ポートシアター“神だのみ”、その他バレエ、ダンス等の衣装デザインを担当。舞台の仕事と平行して、子どもおよび親子を対象としたワークショップを行っている。2005年度は文部科学省”子どもの居場所作り”事業の一環で、8ヶ月間横浜の小学校の学童保育でワークショップを担当。その他、6年前から”感性の教室”のメンバーとして様々なプログラムで公立小学校数校の総合学習の授業に協力している。

#### 吉岡紗矢（よしおか さや）【俳優】

俳優。桐朋学園大学短期大学部芸術科卒業。1997年、横浜ポートシアター入団。”小栗判官照手姫”、“ホテル水の王宮”、“王サルヨの婚礼”、“遠藤啄郎のアメリカ”、“賢治讀え”、等に出演。その他に外部の公演に賛助出演。2005年度文部科学省”子どもの居場所作り”事業で、8ヶ月間横浜の公立小学校の学童保育でワークショップ担当。小中学校および高等学校の国語の授業で宮澤賢治の作品の語りを聞かせたり、高等学校の演劇の授業で仮面の演技を見せたりしている。

#### 東野祥子（ひがしの ようこ）【ダンサー】

ダンスカンパニーBABY-Qのコレオグラファー（振付師）、ダンサー。身体から織り成される感情の起伏や衝動、個々の人間の本质をダンスの根底に置き、ダークかつカッティングエッジな電子音響と機械仕掛けの硬質な美術、様々なモチーフの交錯する舞台を創りだす。ソロダンス活動として、煙巻ヨーコ名義で即興アーティストとのセッションをクラブ・ライブハウス・ギャラリー・野外等で展開。2004年《TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2004》にて『次代を担う振付家賞』を受賞。2005年《横浜ソロ×デュオ〈CompOition〉+》にて群舞部門『未来へ羽ばたく横浜賞』を受賞。

### 奥田雅楽之一(おくだ うたのいち)【地歌・生田流箏曲演奏家】

1979年東京生まれ。祖母中島靖子に生田流箏曲を師事。祖父唯是震一に地歌三弦を師事する。後年、名古屋の今井勉に平家琵琶を師事。胡弓を森雄士に師事。又、作物を二代富山清琴に師事する。(平成16年度文化庁国内研修生)85年国立大劇場にて初舞台。94年、歌舞伎「黒塚」に出演後、熱望していた西洋音楽(作曲)の勉強の為、5年間邦楽器から遠ざかる。復帰した99年以降は歌舞伎や日本舞踊の地を務める他、「NHKラジオ」等にも出演。02年、「雅楽之一(うたのいち)」の名を受く。年々増える大舞台を一つ一つ大切に務め上げる一方、西洋音楽を中心とした作曲活動にも積極的に取り組んでいる。しかし何より、古典の習得に余念がない。

### 鈴木慶江(すずき のりえ)【オペラ歌手】

横須賀市出身。東京芸術大学卒、同大学院オペラ科修了。第29回イタリア声楽コンクール第1位ミラノ大賞受賞により、1999年11月からイタリアのG.ニコリーニ国立音楽院に推薦留学。2002年、ミラノ・東京・大阪で行われた歌曲とオペラ・アリアのリサイタルでデビューを飾る。自身による選曲とサウンド・プロデュースによって生まれた「Florie(フィオーレ)」は、クラシック界では異例の大ヒットを記録する。

### 河原厚子(かわはら あつこ)【ヴォーカリスト】

成蹊大学時代よりジャズクラブで歌い始める。その後コーラス・ヴォーカリストとして、数多くのスタジオワークやツアー、CM製作等をこなす。1983年にニューヨークへ渡り、ハーレムのジャズスクール、ジャズモービルで本格的にボーカルを磨き直す。帰国後、東京・横浜のジャズクラブで精力的にライブ活動を展開する一方、親子のためのコンサート、小・中学校、生涯教育学校でのトーク&ライブ等、3歳から大人までのジャズの実験教室など、多彩な場所で活躍している。

◆ 広報実績

新聞掲載

2006. 7. 28

読売新聞・朝刊【地域面】

南神大寺小学校：美術（似顔絵）

2006. 11. 23

読売新聞・朝刊【横浜版】

いちよう小学校：伝統芸能（狂言）

テレビ放映

2006. 7. 11

tvk「ニュースハーバー」

南神大寺小学校：美術（似顔絵）

2006. 10. 6

NHK総合「首都圏ネット」

永田小学校：美術（市民ギャラリーとの連携）

2006. 11. 27～12. 3

横浜ケーブルビジョン「地域みっちゃ9！YCV」

いちよう小学校：伝統芸能（狂言）

2006. 11. 29

NHK総合「首都圏ネット」

舞岡小学校：伝統芸能（寄席）

2006. 11. 30

NHK総合「おはよう日本」

舞岡小学校：伝統芸能（寄席）

読売新聞・朝刊【横浜版】 2006. 11. 23(木・祝)

狂言師から扇子の使い方を学ぶ児童たち



**「狂言面白い」**  
いちよう小で「柿山伏」扇子の使い方も学ぶ子供たちに芸術文化にふれてもらおうと、横浜市東区の大蔵流の山本東次郎さん(69)ら狂言師7人が柿山伏を演じた。

市芸術文化振興財団が2004年に始めた「芸術文化教育プログラム推進事業」の取り組みで、伝統芸能などの分野で活躍している人たちが小学校に派遣し、言葉は難しかったけれど、ストーリーも大体理解でき、一つで、国語の教科書にも

載っている。狂言師が物語のあらましを説明した後、山から帰った空腹の修行僧が他人の家の柿を食べているところを、持ち主に見つかったりして、話をこっけいな身ぶりを交えて演じた。初めて見る児童がほとんどで、最初は目を丸くして、すぐに笑い声が上った。6年生を対象に、狂言の立ち居振る舞いや扇子の使い方などを教える教室も開かれた。

柿山伏は狂言の代表作の一つで、国語の教科書にも



画家の黒田さん(左)が挿く似顔絵に見入る子どもたち(市立南神大寺小)

# 芸術家が出前授業

## 横浜市立小 人形劇、似顔絵

横浜市が、芸術家を市立小学校に派遣する出前授業の取り組みを広げている。名付けて「わたしたちの小学校にアーティストがやってくる」。文化や芸術への関心を深めてもらうことで、子どもたちの創造力をはぐくもうという試みだ。

「こんにちは」。劇の大歓声が上がった。手には舞台上に見立てた床の上かめた人形を大げさな声や動ら、だみ声とともに魔女のきで自在に操る人形劇俳優よつな人形が顔を出すと、の中村植子さんが顔を出す

(武藤修一)

と、クラスはたちまち拍手と熱気に包まれた。

横浜市中区の市立北方小の3年生が受けた授業のテーマは「パペット人形作り」。講師の中村さんは、東京都で人形劇団「どんきい劇場」を主宰する。子どもたちは指場を受けながら、配られた色とりどりのウレタンを切り張りして、

鋭い牙のサメやピンク色の耳がかわいらしいウサギなど、あらかじめ思い描いていたイラスト通りの人形を完成させた。

中村さんによる授業は9月までに3回行われ、最終回には子どもたちが考えたストーリーで人形劇を披露する。小林正弘校長は「普段の授業ではできない体験に、子どもたちの目が生き生きしているのがわかる。学校にいながらにして芸術文化に触れる機会があることはありがたいこと」と話す。

横浜市神奈川区の市立南神大寺小学校で行われたのは似顔絵の授業。1年生が机を向かい合わせ、木炭で手や顔を真っ黒にしながら友人の顔を描き合った。「うまく描こうと思わずに、楽しく描こう」。机の間を回りながら声をかけていたのは、炭化させた枝を指につけて挿く手法を得意とする似顔絵画家の黒田晃弘さん。

黒田さんが、真っ白な画用紙に担任の山下幸江教師の挿しげな顔を描き上げるのを見ると、初めは絵が苦手を話していた子どもたちの表情も真剣に。絵を完成させた子どもたちは、プロの画家にほめられた満足感にあふれていた。

黒田さんも「授業をきっかけに、子どもたちに画家や芸術家という職業の素晴らしさを知ってもらえればうれしい。将来はこの中から世界的な画家が現れるかもしれないと笑顔を見せた。

出前授業は、市文化振興課が市立美術館などの運営を担当する外郭団体に委託している。2年間の試行を経て、今年度は22校に芸術家を派遣する予定だ。担当者には「芸術関連の予算が削減傾向にある中で、子どもたちに芸術文化への理解や関心を深めてもらうことで、文化の裾り高い横浜らしい街づくりの一端を担ってほしい」と話している。



ルネサンス

◆平成 18 年度 財団法人横浜市芸術文化振興財団  
子どもを対象とした事業より抜粋

財団法人横浜市芸術文化振興財団では、各セクションで子どもを対象とした様々な事業に取り組み、子どもたちが芸術文化へアクセスできる機会を、鑑賞、体験の両面から幅広く提供しています。平成 18 年度事業の一部を抜粋してご紹介します。

|  |  |
|--|--|
| <p>開発事業グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市芸術文化教育プログラム推進事業<br/>(所管施設等とも連携)</li> </ul> <p>業務管理グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夏休み子どもプロジェクト (瀬谷区)<br/>アートお届け隊 (戸塚区)<br/>(横浜市文化芸術の創造性を活かした地域づくり事業より)</li> <li>夏休み 1 日施設開放デー(所管施設等とも連携)</li> </ul> <p>横浜美術館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どものアトリエ<br/>(学校のためのプログラム、日曜造形講座、親子のフリーゾーン、教師のためのワークショップ、子どものための展覧会等)</li> <li>小島烏水版画コレクション展関連企画展<br/>「春休みにエッチングに挑戦」</li> </ul> <p>横浜みなとみらいホール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ジャズ・アット・リンカーン・センター</li> <li>心の教育 ふれあいコンサート</li> <li>神奈川フィル・楽器ワークショップ 2006<br/>「みんなの☆コンサート」</li> <li>夏休みオルガンわくわく大作戦</li> </ul> <p>横浜能楽堂</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜能楽堂特別普及公演「夏休み夢舞台」</li> <li>こども狂言ワークショップ 入門編／卒業編</li> <li>横浜こども狂言会</li> </ul> | <p>横浜にぎわい座</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>にぎわい座寄席体験プログラム</li> <li>こども大衆芸能講座・ワークショップ</li> </ul> <p>Z A I M</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Z A I M で遊ぼう！</li> <li>CG アニメーション制作ワークショップ</li> </ul> <p>横浜市民ギャラリー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市こどもの美術展 2006</li> </ul> <p>横浜市民ギャラリーあざみ野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>あざみ野 “夏の” こどもぎゃらりい</li> </ul> <p>旭区民文化センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが紡ぐ “ワンダーアイズ” 写真展</li> </ul> <p>磯子区民文化センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>杉劇リコーダーず 2006</li> </ul> <p>吉野町市民プラザ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>神奈川フィル・ブラスクインテット+1<br/>[金管クリニック&amp;夏休みファミリーコンサート]</li> </ul> <p>岩間市民プラザ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ほどがや人形劇フェスティバル</li> </ul> |
|--|--|





平成 18 年度 横浜市芸術文化教育プログラム推進事業  
《シンポジウム》アートと学校教育の連携を考える 配布資料

作成：財団法人横浜市芸術文化振興財団 開発事業グループ  
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい2-3-6 横浜みなとみらいホール6階  
電話 045(682)2015 ファックス045(682)2045 <http://www.yaf.or.jp/>